豊岡市環境経済戦略

～　環境と経済が共鳴するまちをめざして　～

提供:㈲富士光芸社　　1960年　出石川（豊岡市）　農家の女性、但馬牛とコウノトリ

何を失ったのか
どのように取り戻すのか

兵庫県豊岡市

目　　次

はじめに（市長あいさつ）……1

1　環境経済戦略をつくるねらい　～～ 持続可能性・自立・誇り ～～ ……2

2 「豊岡」を見つめ直す　～～ 「豊岡」がめざすヒントは「豊岡」の中にあった ～～ ……3

（1）自然と折り合いをつけた暮らしがあった

（2）環境と経済が分離した

（3）コウノトリが教えてくれた

（4）台風23号で気付かされた

3　めざすまちの姿をイメージする　～～ 見つめ直して分かったことを形にする ～～ ……6

4　環境と経済が共鳴するまちをつくる　～～ めざすまちの姿を具体化する ～～ ……8

（1）取り組むうえで基本となる考え方

（2）取組みを活発にするための仕組み

（3）実現するための基本の柱

資　料

平成16年度豊岡市環境経済戦略策定委員会委員……13

はじめに

豊岡の空に帰したコウノトリのつがいからヒナが生まれ、今年7月、国内では46年ぶりにコウノトリが自然界で巣立ちました。人工飼育の開始から42年、野生復帰の取組みがまた一歩前進しました。

コウノトリの野生復帰の取組みには、膨大な時間とエネルギーとコストがかかります。

しかし、豊岡市は、①人工飼育のためにコウノトリを捕らえたときの「いつか、空に帰す」という約束を果たすこと、②絶滅の危機に瀕しているコウノトリ（Oriental White Stork）を守り、生物多様性の保全について国際的に貢献すること、③コウノトリも住める、人間にとって素晴らしい環境をつくることを目的として取組みを続けてきました。

私たちはこの取組みの過程で環境と経済の共鳴、つまり環境への取組みによって経済効果が生まれ、経済効果が生まれることによって環境への取組みが活発になり、さらに経済効果が高まるという仕組みがあることに気付きました。

豊岡市環境経済戦略は、環境と経済が共鳴する仕組みを磨き、広げることにより、これまでは相反すると考えられていた「環境」と「経済」を共に発展させようとするものです。

この戦略に沿った取組みが活発に行われることにより、環境も経済も素晴らしいまち、そして人口規模は小さくても、世界の人々に尊重され、尊敬される“小さな世界都市”になることをめざし、豊岡は挑戦を続けます。

平成19年12月

豊岡市長　中 貝 宗 治

※この戦略は、環境経済戦略の現在の取組み状況・課題に対応するため、平成17年3月に策定した戦略を改訂したものです。当初の戦略の策定にご尽力いただいた豊岡市環境経済戦略策定委員の皆さまに、改めて感謝申しあげます。

1　環境経済戦略をつくるねらい

～～　持続可能性・自立・誇り　～～

持続可能性　環境への取組みを持続可能にする

環境への取組みが成果を得るためには、活動が持続され、広がっていくことが必要です。

しかし、これまでの環境への取組みは使命感・心意気や公的資金だけに支えらていることが多く、長続きしない傾向がありました。

そこで、経済に裏打ちされることによって環境への取組みを持続させ、発展させることを可能にします。

自　立　環境という資源を生かして経済的に自立する

私たちの暮らしは経済に支えられています。経済を元気にすることは、家計や企業活動、そして市の財政にとってとても重要です。

では、豊岡ではどのような分野で経済を元気にすることができるのか。

足元を見てみると、豊岡にはコウノトリ、城崎温泉、出石のまちなみなど自然・歴史・文化によって培われた素晴らしい環境があります。

豊岡は環境という資源を生かし、経済的な自立をめざします。

誇　り　豊岡での暮らしを誇りあるものにする

地方が活力を失っていく過程は、地方が自らの誇りを失っていく過程でもありました。

もし、豊岡が環境への取組みによって経済が成り立っているまちになれば、私たちは豊岡に大いなる誇りを持つことができるでしょう。

そしてその誇りがまちづくりの原動力になると信じます。

2「豊岡」を見つめ直す

～～ 「豊岡」がめざすヒントは「豊岡」の中にあった ～～

(1)自然と折り合いをつけた暮らしがあった

川・水

川は農地のかんがい、水上交通、魚や貝を採る場として重要であっただけでなく、洗濯や川遊びなどをする場として暮らしと密着していました。

また、上流にはオオサンショウウオが住み、山葵(わさび)の栽培、水力発電も行われていました。

その一方で、川は農地の流失や住居の浸水などの被害をもたらしました。

しかし、人々は堤防を二重に築いて氾濫を防ぎ、砂利採取により適度に浚渫(しゅんせつ)を行い、玄武岩の石積みで住居をかさ上げすることなどにより、洪水から財産を守ってきました。

む ら

むらでは米づくりなどが行われ、飼われていた牛の糞や下肥は肥料として利用されていました。円山川下流域などに広がる「じる田」と呼ばれる湿田は、ぬかるんで農作業が困難でしたが、人々は田舟や田下駄を手作りするなど、知恵と工夫によりその困難を乗り越えてきました。

また、お米を作ることにより自然をより豊かにし、手仕事の技と共助・忍耐・自立の精神を育みました。コウノトリはそのような豊かなむらに、コウノトリを排除しない大らかな心を持った人々と共に住んでいました。

魚をすくう子どもたち

豊岡盆地の湿田(じる田)

ま ち

まちには、企業、商店や官公庁が集まり、また周囲から集まる農作物や魚介類、日用品などを求める人たちでにぎわってきました。

人々は水辺に生えるヤナギで杞柳製品を作り、時代の変化に合わせて鞄(かばん)づくりを始め、豊岡を全国有数の鞄産地に発展させました。

ちりめんをはじめとする絹織物業は、豊岡の多湿な気候を生かしたものでした。

にぎわう豊岡駅通商店街

山

山では枝打ちや間伐など適正な管理により木を育てていました。自分の家を建てたり、販売収入を得る必要があったからです。

その結果、日光が地面まで届いて豊かな植生が守られ、保水力が優れていました。

また、木炭の製造は冬期の農家の主要な副業になり、和紙づくりも行われ、神鍋高原はたくさんのスキー客でにぎわってきました。

山林での木の伐採

海

海では沿岸での海藻の採取などから漁業が始まりました。

そして地引き網による漁から底引き網による漁へと移り、漁場が沖合に広がっていきました。

網に入る魚介類は、川から運ばれてくる豊富な栄養などによって育ったものでした。

また、砂浜には浜茶屋が設けられ、多くの海水浴客でにぎわいました。

マグロの大漁でにぎわう竹野浜漁港

このように、豊岡では自然と経済活動がバランスを保ちながら成り立っていました。

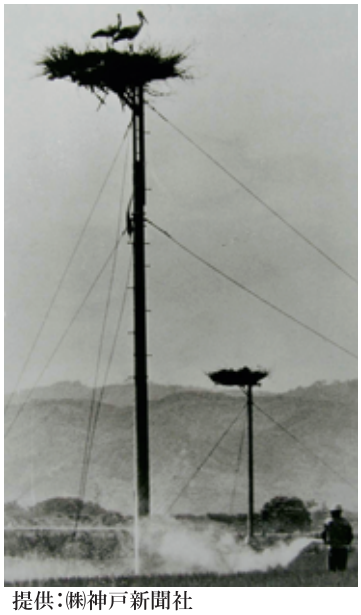
自然(環境)と経済活動(暮らし)が一体になり、互いに折り合いをつけながら存在してきた姿が「豊岡の暮らし」でした。

(2)環境と経済が分離した

高度経済成長期に日本全体が経済的利益を優先して動き始めると、経済的な効率が著しく重視されるようになりました。効率よくお米を作るために即効性の化学肥料や毒性の強い農薬がまかれ、低コストで品物を作るために川や海には工場から廃水が垂れ流されたのです。

また、輸送手段や科学技術の発達などによって自然を利用しなくても暮らせるようになり、自然は軽視されるようになりました。こうして、自然(環境)と経済活動(暮らし)が一体化していた「豊岡の暮らし」は影を潜めてしまいました。

このような時代のなかで、姿を消していった代表的な生きものがコウノトリです。



提供:㈱神戸新聞社

人工巣塔の下で農薬がまかれる

(3)コウノトリが教えてくれた

豊岡では自然軽視の社会においてもコウノトリの保護増殖事業が地道に続けられ、コウノトリが再び空に帰りました。コウノトリは2つのことを私たちに教えてくれました。

一つは粘り強く希望を持ってやり続ければいつかは目標を達成できること、もう一つは豊岡固有の資源を磨き、育てることによって豊岡が輝くことでした。

また、コウノトリも住める環境は、人間にとってこそすばらしい環境であることを気付かせてくれました。

コウノトリはエサ(生きもの)がたくさんいる豊かな自然と、コウノトリを排除しない大らかな心(文化)がある環境でしか生きられないのです。

(4)台風23号で気付かされた

自然は私たちを和ませ、暮らしに豊かな恵みをもたらします。

しかし、自然の力は圧倒的に強く、人間の力はとても弱いものです。

そして自然は時折、理不尽に人々を苦しめます。

そこで、豊岡では浸水に備えて石積みで住居をかさ上げし、道が水浸しになったときに備えて舟を用意しておくなど、人々が昔からの知恵を生かし、自然と折り合いをつけて暮らしていました。

平成16年台風23号の大きな被害によって、私たちはいつの間にかこのような「自然に抱かれた暮らし」を忘れ、自然の力を軽視していたことに気付きました。

水浸しになった豊岡盆地

3　めざすまちの姿をイメージする

～～　見つめ直して分かったことを形にする　～～

自然に関心を持ち、自然に負荷をかけない暮らしをする。
そのことによって、暮らす人々が豊かになる。
自然に抱かれた豊かな暮らしが大らかな心を育てる。
豊岡市がめざす「環境と経済が共鳴するまち」は、現在の生活スタイルや価値観に合わせ、このような「豊岡型の暮らし」が成り立っているまちです。
イメージしてみましょう。

まちのいたるところに、元気に働く若者の姿が戻ってきました。

○環境や健康意識の高まりにより、安全・安心な豊岡の農作物の引き合いが増加し、手間に見合った適正な価格で売れるようになりました。
○国産材が多湿な日本の気候に合うことなどが再認識され、その需要が増加し、林業が息を吹き返しました。
○山や田んぼの環境が良くなることにより川や海の環境も良くなり、沿岸を中心に漁獲高が増えています。
○環境も食もいい豊岡に、たくさんの観光客が訪れます。
○鞄などのものづくりも盛んになり、優れた品質が好評です。

そして、老いも若きも誇りと自信を持って働いています。

菜種の刈取り

落ち着いた風景のなかを、コウノトリが悠然と舞っています。

○安全・安心な農作物の栽培が盛んになり、農地を荒らさなくなりました。
○間伐材や雑木などが燃料として使われるようになり、森が元気を取り戻しました。
○山に人が入るようになり、シカ、イノシシなどが人里に近づかなくなりました。
○資源の再利用が進み、投棄されるごみが減りました。
○経済的なゆとりが生まれ、気候、地形、周りの雰囲気に合わせた住宅が建ち、整った風景をつくっています。
○商業施設の外観を豊岡の風景に合わせることが一般的になりました。

そして、ゆったりとした気持ちで空を見上げると、コウノトリが悠然と舞っています。

人々の顔に、笑顔があふれています。

○環境も経済も良くなった豊岡のまちが世界から注目され、国内外から多くの人が豊岡を訪れるようになりました。
○豊岡のまちがマス・メディアでも紹介され、さらに有名になりました。
○豊岡を訪れた人の一部は、生活や研究の拠点を豊岡に移しました。

そして、豊岡の人々が「自然の恵みがありがたい」、「豊岡は本当にいいまちだ」と感じるようになりました。

笑顔がこぼれる

耕作されている棚田

4　環境と経済が共鳴するまちをつくる

～～　めざすまちの姿を具体化する　～～

(1)取り組むうえで基本となる考え方

豊岡にこだわる

コウノトリのように「豊岡固有のもの」・「豊岡に昔からあったもの」・「豊岡らしいもの」を生かします。

豊岡の空を舞うコウノトリ

学ぶ・考える

学び、現状を見て、どのようにしたら良いかを考え、行動します。

環境経済事業セミナー

つながる

人・知恵・知識・技術をつなぎます。

意見交換会

(2)取組みを活発にするための仕組み

環境経済の取組みを活発にするため、市民・事業者・行政・専門家がそれぞれの強みを生かすことができる仕組みを作ります。

「知」の集積を図ります

行政は、現場の取組みを理論的に分析・検討し、さらなる取組みにつなげることができる「知」を豊岡に集め、高めます。

たとえば

○豊岡を拠点として研究する専門家を増やします。
○豊岡を研究の場とする学生を増やします。
○豊岡で研究した学生が豊岡に帰られる受け皿づくりを検討します。
○さまざまな研究機関との連携を深め、必要なときに相談できる体制を整備します。
○豊岡にある「知」を磨き、取組みに生かします。

知識・情報を提供します

行政・団体・専門家は、個々の「環境経済」を情報・知識面で支えます。

たとえば

○必要な知識・技術を持った人材や機関を紹介します。
○具体的な取組みや成功した事例をホームページ、シンポジウム、学会誌などで発表します。
○「環境経済」に関するさまざまな法律や助成制度などを分かりやすく整理し、有効に使えるようまとめ、発信します。

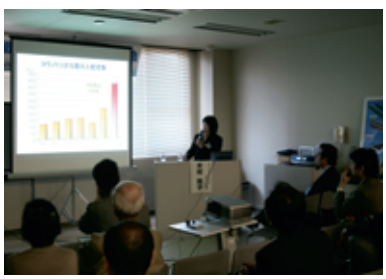
環境経済のきっかけ、ヒントをつくります

行政・団体・専門家は、相互に連携し「地域のシンクタンク」としての役割を果たします。

たとえば

○他の先進事例を研究し、豊岡の環境経済に応用できるものがないか検討します。
○マーケティングやコンサルティングを行い、環境経済の種・芽を見つけ、育てます。

大学の研究者に相談


市民が環境経済について検討

(3)実現するための基本の柱

次の5つの柱ごとに具体的な成功例を作り、取組みを全体に波及させます。

①豊岡型地産地消を進めます

豊岡の環境に合った暮らし ⇄ **企業・生産者の利益の増加**

豊岡の企業・生産者が作ったもの・サービスを市内で消費・利用することにより、豊岡固有の暮らしを保存・再生・創造し、輸送によるCO_2の発生を削減するとともに、市内の企業・生産者の事業活動を支えます。

そして、さらに市外での消費・利用の拡大を図ります。

地域ブランド「豊岡鞄」

たとえば

○豊岡で作られたもの・サービスの良さをアピールし、ブランド力を高めます。
○豊岡で作られたものが市内で販売されるよう働きかけます。
○豊岡産の安全・安心な食材を生かした食生活を促します。
○豊岡産の食材を観光客に提供し、豊岡の魅力を高めます。
○ものやサービスを購入する人たちの情報を作る人に伝えます。

豊岡産「卵かけご飯」

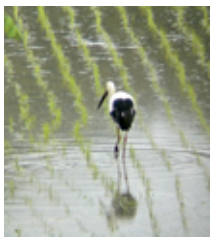
②豊岡型環境創造型農業を推進します

たくさんの生きものが住む自然環境の広がり ⇄ **農業者の利益の増加**

農薬や化学肥料に頼らず、田んぼなどの様子を見抜き、農業をしながら多様な生きものを育む「考える農業」を進めます。

たとえば

○学習会や技術指導会の開催により、慣行農法(農薬や化学肥料を慣行的に使用する農法)からの転換を促します。
○「コウノトリ育む農法」などの栽培技術のさらなる改良に努めます。
○「コウノトリ育む農法」や「コウノトリの舞」ブランドの意味を理解する人を増やし、販売拡大を図ります。
○豊岡の食が安全・安心であることを生きもの調査により実感してもらい、その活動を観光資源とします。


田んぼで餌をとるコウノトリ

安全・安心のブランド
「コウノトリの舞」

③コウノトリツーリズムを展開します

環境を意識する市民の増加 ⇄ **観光関連産業の利益の増加**

豊岡固有の資源や心地良さを磨き、つないで、豊岡らしいツーリズムをつくります。

たとえば

○古くからのまちなみや風景を守り、高めます。
○豊岡の風景の意味（人々の取組み・自然・歴史・伝統・文化）を伝えます。
○温泉・まちなみ・海・高原・農村など豊岡固有の資源をつなぎます。
○安全・安心でおいしい豊岡の食を提供し、「これからも買いたい」気持ちを高めます。
○コウノトリ野生復帰の取組みへの参加を促し、豊岡の人との交流を図ります。

コウノトリ

豊岡盆地

出石の伝統的なまちなみ

城崎で温泉につかる

文化を学ぶ

農村で交流

④環境経済型企業の集積を進めます

環境への負荷の減少 ⇄ 企業の利益の増加

環境を良くする活動により利益を生み出す企業を増やします。

たとえば

○環境経済型の技術開発やゼロ・エミッション(廃棄物排出ゼロ)に取り組む企業を支援します。
○市外から環境経済型の企業を誘致します。
○環境経済に関する素材、人材などの情報を発信し、市内の事業者をつなぎます。
○環境経済型のものづくりの現場を観光の資源とし、消費・利用につなげます。
○環境経済型の企業を市がPRし、地産地消をめざします。

太陽電池の製造

イワシの頭、骨

ドッグフード

⑤自然エネルギーの利用を進めます

豊岡にある資源の活用　⇄　光熱水費の削減

豊岡にあるもの、豊岡で生まれるものをエネルギーとして利用することにより、地域経済を活性化させるとともに、地球温暖化の防止に寄与します。

たとえば

○木質系のバイオマス（再生可能な生物由来資源）などバイオマスエネルギーの活用を促進します。

○耕作されていない農地などでのエネルギー作物の栽培を促進します。また、この風景をツーリズムに生かします。

○廃食用油などの再利用を促進します。

○太陽光発電設備の設置を支援します。

○竹など放置されている資源の活用方法を研究します。

間　伐

⇨

ペレット

⇨

ペレットストーブ

平成16年度豊岡市環境経済戦略策定委員会委員（敬称略）

委員長	中瀬　勲			
副委員長	中田裕美子			
委　員	加藤恵正	木村尚子	小浦久子	小西孝則
	柴田美鈴	武岡慶樹	田原良次	橋本　豊

提供:㈱神戸新聞社　　2007年　出石川(豊岡市)　コウノトリ

ここまできた
これからも、一歩ずつ、一歩ずつ

発行:兵庫県豊岡市
〒668－8666　兵庫県豊岡市中央町2番4号
TEL (0796)21-9017　FAX (0796)24-8101
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK